

## 平成28年度第9回天童市教育委員会について（報告）

日 時 平成29年1月20日（金） 午前10時  
場 所 教育委員会 第一会議室

### <教育長あいさつ>

はじめに、山本市長の仕事始めの式での話として、1つには「第七次天童市総合計画の策定」の年であること、「日本一の健康都市」をキーワードとして、健康はもちろんのこと、住みよい安全安心なまち、経済的な面として産業も含めて健康な年にしていきたいということがありました。その中に雇用と教育を含めていました。

2つには、私の職員への年頭のあいさつでは、市長が話している「雇用と教育に尽きる」との話から、大きな期待への十分な意欲、気力と覚悟をもって職務にあたってほしいと話しています。

また、新しい学習指導要領が告示されようとするなか、どうしても学校教育が重要視されがちですが、新しい学習指導要領では総合的な、よき社会の形成につながる人間力が求められています。それには、教育総務、学校給食、生涯学習、文化、スポーツを含めて広範な連携が必要とされていると考えています。各々の役割をしっかりと認識し、そしてつながる力が大切であると話しています。教育委員会として今年のキーワードを創造ということで進んでいきたいと思います。いろいろなことで、新しく取り入れ、改善していかなければならないことが出てきます。新たなものを生み出して、活力ある大人の創造の姿を見せることが、子ども達の励みになる大切なことであるとお話しさせていただきました。

中1女子生徒の死亡事案についてですが、様々な経緯があり市長と一緒に現場に行き手を合わせてきました。私たちの動きとは別に、ご遺族から「悲しみは消えません」とのコメントが寄せられました。それらを踏まえて、命日に現場に行ったことはとても大事なことであったなどの思いでいます。この事案については風化させないようにしていきたい考えです。

次に、15日に開催のスポーツトークショーについてです。感じたことが4つありました。1つには「好きだ」ということの強さです。野球の栗原選手は実家の焼き肉店が閉店する夜11時まで、バットの素振りをしていたという話しによるものです。2つには、彼への質問にメンタル面でのプレッシャーはなかったのかとありましたが、「今考えるべきこと、やるべきことをやるだけだった」との話から、私たちも日々様々な問題が起こりますが、今最善を尽くすべきことをやるだけだなど感じました。3つには、全体的に彼は真面目、謙虚、一生懸命だと思いました。特に練習時間が午前10時からと決められている中、7時半ごろに着いて、器材を出して準備をしたそうです。そのような姿勢があり、コーチ就任の依頼があったとのこと。4つには、彼の話をもっと聞きだしている齋藤真由美さん（阿部真由美教育委員）の話術の素晴らしさを感じ

ました。

結びに、学習指導要領等改定の基本的な方向性が書いてある資料を皆さんにお配りしています。序章の部分だけですが、読んでいただきたいと思います。続きの部分や詳細についてはインターネットでも見ることができます。また、今後どのように進んでいくかを分かりやすく示したスケジュールもありましたのでご一読いただき、今後の教育委員会活動の参考にしていただければと思います。

## < 議 事 >

---

### 議第20号 天童市学校評議員の委嘱について

<可決する>

#### 審議経過

質疑なし

### 議第21号 天童市スポーツ推進計画の策定について

<可決する>

#### 審議経過

文化スポーツ課：スポーツ基本法第10条第2項の規定により、教育委員会の意見を聴くことになっているため、資料に基づき説明する。

委員：市民アンケートを実施しているが、その内容が反映された箇所がありますか。

文化スポーツ課：様々な意見をいただき、反映できるものは取り入れています。アンケート結果も資料として作成していきます。

委員：スポーツ指導者の育成と活用が、市のスポーツ振興に重要と考える。活用のためのネットワーク構築を望みます。

委員：指導者バンクが一時期立ち上がったが、立ち消えとなったようです。再度検討することが望ましいと考えています。

委員：指導者の質、技術的な面だけでなく心を含めた指導ができる指導者の育成が大切と考えます。「健全な精神は健全な肉体に宿る」は、健全な肉体にはとかく健全な精神が宿らないので大事にしましょう、が本来の意味です。誤った方向に行くことのない指導者育成が重要と思います。

文化スポーツ課：いただいた意見を考慮し、市民のためのスポーツを推進してまいりたいと考えています。

教育長：議事は以上です。委員の皆様から何かありませんか。無いようですので議事を終了します。

< 報 告 >

---

- ・ 12月21日の第2回いじめ問題専門委員会について（学校教育課）

意見の経過

委員：実際は傷を受けた子ども達をどう受け止めて、正しく導いていくかが大切と考えます。周りの大人たちが自分の子だけを守る思いで、違った方向にことを大きくしていってしまうことは問題だと思う。子ども達自身が解決できる力を養えるようにすることも、大人の責任だと思います。昔のように地域の大人が子どもを育てるような社会づくりが出来ていくことを望みます。

事務局：専門委員会の委員からは、子どもといっても発達段階に差があり、自分の力で問題解決できるようになる子もいれば、小学校低学年のように、相手の気持ちをうまく汲みとれない子には、大人が解決方法を導く必要がある。との意見をいただいています。大人たちは正しい情報を共有し合うことが大切だと思っています。

教育長：社会の大人が社会の眼差しで子どもを見ていた時代があり、今はそれが弱くなっている。ぜひ取組んでいきたい課題であると考えます。

教育長：他には無いようですので、第9回教育委員会会議を終了します。